



国有林野
事業の取組

東北森林管理局



植樹祭の会場に集まった約1600人の参加者▲

地域住民との 協働による森林づくり

東北森林管理局では、歴史的建造物の修復に必要な大径木を育てる森林づくり、松くい虫被害の拡大により衰退した森林の再生、白神山地区における自然再生活動等、管内各地においてNPO、ボランティア団体、教育関係機関、企業等の多くの地域の方々と協働し、地域の特色を生かした森林づくりを行っています。こうした中、秋田県鹿角市内において自然災害により荒廃した森林を早期に再生する「鹿角八幡平かづのはちまんたいふるさと森林づくり植樹祭」を開催しました。



様々な樹種の苗木を植える子供たち▲

植樹後の様子▼





地すべり発生直後の様子

「甚大な地すべり被害」

平成9年5月、秋田県の北東部、北東北3県（青森、岩手、秋田）のほぼ中央に位置する秋田県鹿角市（かづのし）八幡平の熊沢国有林内で、幅約400m、長さ約800mに及び大規模な地すべりが発生しました。付近の住民や宿泊施設の従業員は事前に避難していたため、幸い人的被害はありませんでしたが、この地すべりやこれに起因して発生した土石流により、下流の澄川温泉と赤川温泉（あかかわ）では宿泊施設など16棟が全壊し、さらに、幹線道路である国道341号線が分断されるなどの甚大な被害を受けました。



地すべり対策施工後の様子

めの荒廃渓流の安定化等の復旧対策に取り組んできました。この対策は平成21年度でおおむね終了し、現在は、地盤の安定が保たれています。

東北森林管理局（当時は秋田営林局）では、災害発生直後から地すべりの抑止のための地表・地下水の排除、土砂流出防止のため

復旧は第2段階へ

復旧の第2段階として、地すべりにより失われた森林を早期に再生し、生物多様性の保全や自然景観の復元を図るため、地域と連携した植樹祭を昨年9月25日に開催しました。

東北森林管理局は、秋田県、鹿角市、米代川源流自然の会と植樹祭実行委員会を組織し、地域住民の皆さんや全国各地の森林づくりに関心のある方々に参加を呼びかけました。また、植樹の指導役として、国内のみならず世界各地で、潜在自然植生による森林づくりの実績のある宮脇昭横浜国立大学名誉教授を迎えました。

植樹祭の前日、「潜在自然植生による森林再生について」との題目で記念講演を行いました。宮脇名誉教授は、「その土地本来の森の構成種をできるだけ多く選んで混ぜ合わせ、従来より間隔を狭めて植栽する。そうすれば、樹木相互の競争による成長が促進され、多様で均衡のとれた森林生態系の回復を早期に図ることができる。」という独自の植樹方法や、世界各地でのこれまでの森林再生の取組の成果について説明しました。植樹祭当日は、あいにくの曇り空



植樹祭の記念として建てられた標柱

で霧雨も降る寒い日でしたが、会場には公募や実行委員会の呼びかけにより、地域住民、鹿角市内の児童、生徒のほか、遠くは東京都からも参加者があり、県内外から約1600人が集まりました。参加者は、2haの区域に、ブナやミズナラを中心に、ケヤキ、クリ、カツラなど11種類、15000本を1時間半ほどかけて植樹しました。参加した子ども達からは「自分が植えた木が大きくなっているのを見に来たい。」「初めての植樹で少し苦労したけど、きちんと植えることができた。」などの声が聞かれました。

東北森林管理局では、今後も引き続き地域住民との協働による森林づくりに取り組んでいきます。